

広重が描いた 東海道

江戸時代、江戸と京・上方を結ぶ主要街道として賑わった東海道は、絵の題材としても多くの作品に描かれました。

東海道の風景を描いた浮世絵に、歌川広重の『東海道五拾三次』（保永堂版）があります。広重は、多くの道中

記や名所図を描いていますが、天保4年（1833年）頃に刊行されたこのシリーズはその代表作とされます。土山の図「春の雨」は、雨の中を進む大名行列の様子で、雨の土山を印象づけるような作品です。水口の図は「名物干瓢」と題し、郊外での干瓢づくりの情景が描かれています。

江戸時代に生まれた浮世絵は、民衆の新しい文化として発展しました。もともと、役者絵や美人画といった人物が中心でしたが、北斎・広重らによる風景版画の確立により、新たな分野が展開することになりました。

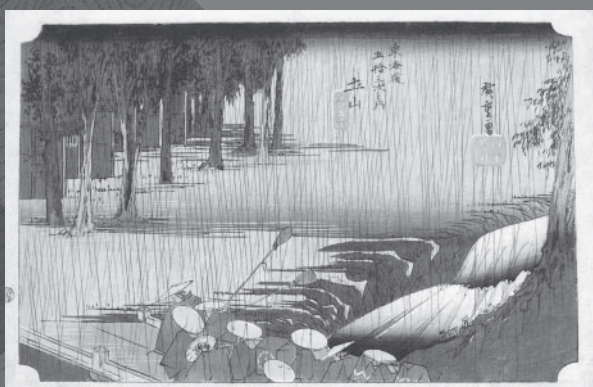
江戸時代後期には、庶民の旅が盛んになり、各種の道中記や名所記が多く出版されるようになりました。浮世絵は、鮮やかな色彩と、街道の名所・名物がふんだんに取り入れられ

問い合わせ

土山歴史民俗資料館

☎ 66-11056 ☒ 66-11067

た構図から各地の情景を知ることができ、旅の情報媒体としての役割を果たしました。このことが風景画流行の一因であったと考えられます。庶民文化として親しまれた浮世絵。広重の描く風景は、街道の特徴ある一場面を切り取り、季節感や天候を重ねて叙情的な作風を生み出しています。それは、優れた芸術作品であるとともに、現代に江戸時代の旅や暮らしぶりを伝える貴重な歴史資料でもあるのです。



▲東海道五拾三次之内土山 春の雨

介護
予防を
はじめましょう

基本チェックリストで 生活機能をチェック

■基本チェックリストとは

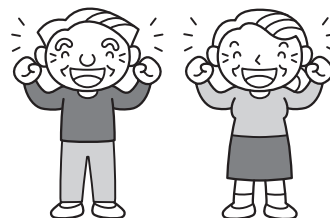
自分の状態を振り返り、生活機能で衰えているところを早めに知るための質問票です。

定期的に自分の状態を知ることは、いきいきと活動的な高齢期を過ごすために、大切なことです。「基本チェックリスト」を用いて自分の生活を振り返ってみましょう。

■生活機能とは

日常生活を維持していくための心身の能力のことをいいます。

要介護状態になる場合のきっかけは、「入れ歯の調子が悪い」「何でもない場所でつまずいた」など、ごくささいな心身の不調から始まる 경우가多くあります。この不調を放置しておくと、少しずつ筋力の低下や低栄養などの生活機能の低下を招き、やがて要介護状態から寝たきりになるという悪循環を招く危険性があります。



市では要介護・要支援認定を受けている方を除く昭和20年3月31日までに生まれた方を対象に、5月中旬に基本チェックリストを送付します。お手元に基本チェックリストが届いたら、質問にお答えいただき、同封の封筒でご返送ください。切手は不要です。

問い合わせ

保健介護課 介護保険担当

☎ 65-0699・0697 ☒ 63-4085